

体験の力 ～福井・金沢修学旅行～

校長 高橋 馨

いつもと違う見通しのつきにくい状況、その不安からくる体調の変化や緊張感の高まり。出発直前の東京駅では、そうした心情を表す生徒も見られました。修学旅行は、生徒たちにとって想像以上に大きなイベントです。いろんなことを乗り越え、たくさんの経験をしながら、友達や先生と過ごす3日間は、普段とは違う見え方や感じ方、気づきや発見、それらによって生まれる感情の高まりを実感できる機会となります。今回の修学旅行でも、そうした特別な環境での友達や先生と関わりを通じて、日常では気づかないことに目を向け、いろんなことに考えを巡らせる、そのような体験ができたように感じます。九谷焼の絵付けや蒔絵の体験では、集中して真剣に取り組む姿が見られました。恐竜博物館では、生きているかのように動き・吠えるティラノサウルスの展示を食い入るように見つめる姿がありました。そして、宿での食事や温泉、普通科と職能開発科が合同で楽しんだレクリエーション大会では、生徒たちの笑顔があふれていました。学校とは違う素敵な表情を、たくさん見ることができました。

文部科学省の資料によりますと、様々な成長の機会を得られる体験活動は、今回の修学旅行のような「直接体験」のほか、ネットやテレビ等を介して感覚的に学びとる「間接体験」、そしてシミュレーション等模擬的に学ぶ「疑似体験」に分類されています。そして、現代社会において「間接体験」や「疑似体験」が圧倒的に多くなるなか、ヒト・モノや実社会に実際に触れ、かかわり合う「直接体験」、さらにその「集団生活の中で育まれる協調性や自律性」の重要性が高まっているようです。修学旅行や移動教室といった宿泊学習を終えたとき、「何か一回り大きくなった（成長した）ように感じる」といった感想を保護者の皆様からいただくことがあります。やり遂げたことで得られる自信とそれによる変容、そういったものがあるからだと思います。今回の修学旅行でも、子どもたちと同じ時間を共有することで、たくさんの笑顔と共にたくましい表情へと変化していく様子を感じることができました。

修学旅行の実施に際し、当該学年の保護者の皆様には準備や集合解散場所への送迎など様々な面でご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。この後も、1年生の移動教室、3年生を中心とした進路にかかわる実習や、体験・見学など、学校を離れて行う体験活動が予定されています。子供たちが自信をもって乗り越え、やり遂げ、成長の機会となるよう、各ご家庭と連携しながら取り組んでまいります。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

八丈分教室より



9月6日、7日に八高祭（文化祭）を開催しました。カフェ「チルチルミチル」の営業では2日間を通して400人以上のお客様に来ていただきました。今回は大賀郷中学校桃組・桜組の生徒と一緒に営業をし、いつも以上に元気いっぱいのカフェになりました。本校の焼菓子200個もあっという間に完売。たくさんのお客様に喜んでいただきました。舞台発表では、八丈高校太鼓愛好会の生徒と一緒に八丈太鼓の演奏をしました。スポットライトを浴びて、たくさんの観客の前で八高生と合わせて叩く太鼓の演奏は、とても堂々として、カッコいいコラボレーションになりました。

カフェは展示部門「銅賞」、太鼓演奏は舞台部門「銀賞」を受賞。閉会式で賞状をいただきました。